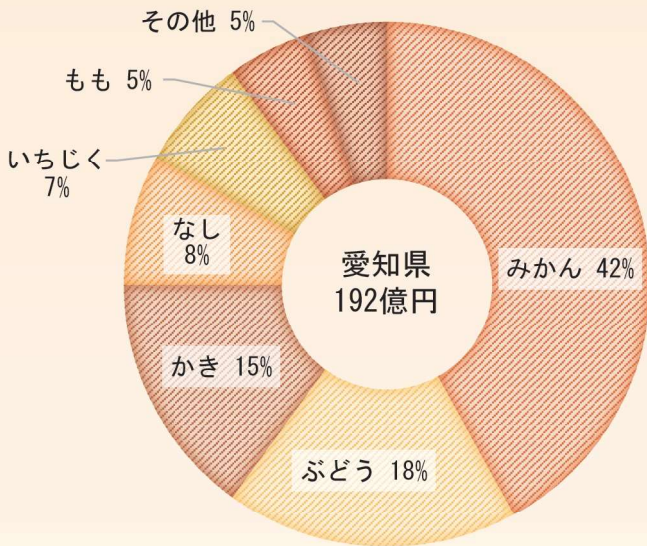


# 6 果樹・茶

愛知県の果樹の生産は、品目別では、みかんを始めとするかんきつ類に加え、ぶどう、かき、いちじく、なしなど多くの種類の果実が栽培されているのが特徴です。

県内に数多くの特色ある産地が形成され、地域の農業の重要な地位を占めています。

果樹の品目別産出額構成比



果樹の品目別結果樹面積



## みかん

産出額 7位



- ・産出額 81億円
- ・全国シェア 4.9%
- ・結果樹面積 1,120ha
- ・主な生産地 蒲郡市 東海市 南知多町

愛知県はハウスみかんの全国有数の産地です。

蒲郡市の「蒲郡温室みかん」、美浜町を中心とした「みはまっこ」が有名です。

また、愛知県のオリジナル品種である「夕焼け姫」のブランド化も進めています。

## ぶどう

産出額 9位



- ・産出額 35億円
- ・全国シェア 1.8%
- ・結果樹面積 416ha
- ・主な生産地 東浦町 大府市 東海市

全国的に最も栽培面積の多い「巨峰」の種なし栽培技術を初めて確立したのは愛知県です。

県内各地にぶどうの直売所や観光ぶどう狩り園があり、シーズンになると多くのお客さんで賑わいます。

## かき

産出額 5位



- ・産出額 28億円
- ・全国シェア 6.4%
- ・結果樹面積 972ha
- ・主な生産地 豊橋市 幸田町 新城市

愛知県の主産地は豊橋市で、「次郎柿」という品種が中心となっており、深くコクのある甘みとしっかりした歯ごたえが特徴です。

また、幸田町では、形が筆の穂に似ている「筆柿」が特産となっています。

## なし 産出額14位



- ・産出額 16億円
- ・全国シェア 2.3%
- ・結果樹面積 304ha
- ・主な生産地  
豊橋市 安城市 豊田市

愛知県では、「幸水」やジャンボ梨の「愛宕(あたご)」、県が開発した「飲月(かんげつ)」などが栽培されています。また、県と国が共同開発した「あいみずき」のブランド化が進められています。

## いちじく 産出額 1位



- ・産出額 14億円
- ・全国シェア 21.2%
- ・栽培面積 119ha
- ・主な生産地  
安城市 常滑市 碧南市

いちじくは県内各地で栽培され、全国有数の産地となっています。1985年から低温流通システムが導入され、新鮮でよく熟したおいしいいちじくが食卓へ届けられています。

## もも 産出額 9位



- ・産出額 9億円
- ・全国シェア 1.4%
- ・結果樹面積 —
- ・主な生産地  
小牧市 豊田市 春日井市

愛知県では、果肉が柔らかく、みずみずしい「白鳳(はくほう)」が最も多く栽培されており、7月中旬から下旬にかけて出回ります。

## ぎんなん 産出額 2位



- ・産出額 1億円
- ・全国シェア 16.7%
- ・栽培面積 61ha
- ・主な生産地 稲沢市

ぎんなんは、稲沢市祖父江町一帯で、古くから、強風を防いだり、火災時の延焼を防ぐ目的で植えられていました。町内には樹齢100年を超える大木があちこちにあり、晩秋には黄金色に染まった美しい風景が広がります。

## 茶 産出額 7位



- ・産出額 15億円
- ・全国シェア 1.9%
- ・栽培面積 318ha
- ・主な生産地  
西尾市 新城市 豊田市

西尾市、豊田市で主に「てん茶(抹茶の原料)」、新城市、豊橋市、市、田原市で主に「せん茶(お茶)」が生産されています。愛知県は、せん茶よりてん茶の生産量が多い全国有数のてん茶の産地です。

## 食と花の街道



愛知県では、県産の農林水産物を活用し、食や花をテーマとして、地域活性化と観光振興に取り組む地域を「食と花の街道」として認定し、その魅力を広くPRしています。



2022年には新たに「おかざき焼き芋街道」が認定されました。さつま芋の品種から焼き方まで、こだわりの詰まった多彩な焼き芋が味わえます。

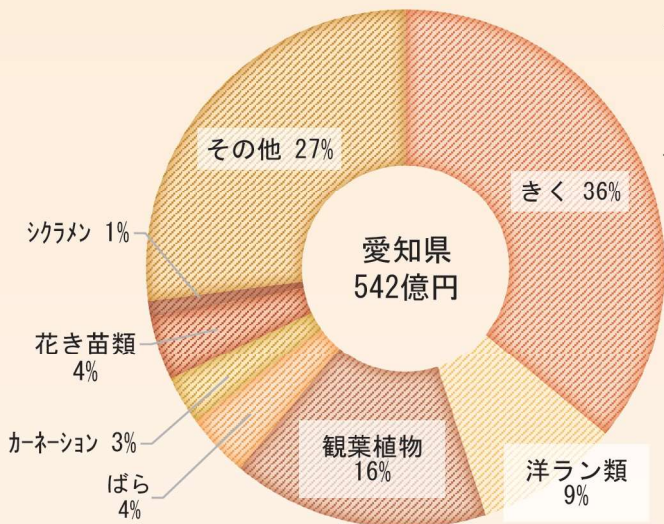
産出額は「生産農業所得統計(2021年)」、作付面積は「作物統計調査(2021年)」(農林水産省)などより。  
(ただし、いちじく及びぎんなんの栽培面積は2019年。茶の栽培面積は全国茶生産団体連合会調査(2021年)より。主な生産地は「農業の動き(2022年)」などより。  
茶の生産地は愛知県茶業連合会会員面積のある市。)

# 7 花き

愛知県の花きの生産は、品目別では、きくの割合が最も多く、全国有数の産地となっています。

また、洋らん、観葉植物、ばらなどの生産も盛んです。愛知県では、多くの花きがガラス温室やビニールハウスなどの施設で栽培されています。

花きの品目別産出額構成比



花きの品目別作付（収穫）面積



## きく（切花）産出額 1 位



出荷量  
1 位

- ・産出額 196億円
- ・全国シェア 36.4%
- ・作付面積 1,280ha
- ・主な生産地 田原市 豊川市

夜に光をあてることで、開花を遅らせる電照栽培は、愛知県で開発され、全国に広く普及しています。県農業総合試験場と国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構が共同開発した「かがり弁ギク」のブランド化など、新たな需要の開拓にも力を入れています。

## 洋らん類（鉢）産出額 1 位



出荷量  
1 位

- ・産出額 48億円
- ・全国シェア 14.0%
- ・収穫面積 40ha
- ・主な生産地 豊橋市 西尾市 東海市

愛知県ではシンビジウム、ファレノプシス（コチョウラン）、デンドロビウムなど多くの種類が栽培されています。中でもファレノプシス（コチョウラン）は、花言葉が「幸せが飛んでくる」となっており、開店祝いや結婚祝いに贈り物としてよく使われています。

## 観葉植物 産出額 1 位



出荷量  
1 位

- ・産出額 85億円
- ・全国シェア 47.8%
- ・収穫面積 94ha
- ・主な生産地 田原市 西尾市 岡崎市

観葉植物とは、葉を觀賞して楽しむ植物のうち、通常は屋外で越冬しないもの（熱帯・亜熱帯産の植物）を言います。コロナ禍で、小さい鉢物やミニ観葉植物などの家庭用の需要が増えています。

## ばら

産出額 1 位



出荷量  
1 位

- ・産出額 23億円
- ・全国シェア 15.0%
- ・作付面積 46ha
- ・主な生産地  
豊川市 田原市 西尾市

愛知県のばら生産は、東三河地域を中心に全国一の産出額を誇っています。2021年には香りが良くトゲが極めて少ない白系バラ「アモールサベル」が愛知県で開発されました。

## カーネーション(切花) 産出額 2 位



- ・産出額 17億円
- ・全国シェア 17.5%
- ・作付面積 45ha
- ・主な生産地  
西尾市 田原市 碧南市

カーネーションの生産は母の日に向けてピークを迎えます。2021年に開発された「カーネフジ愛農1号」は鮮やかな濃いピンク色と日持ちの良さが特徴です。

## 花き苗類 産出額 3 位



- ・産出額 23億円
- ・全国シェア 7.1%
- ・作付面積 103ha
- ・主な生産地  
一宮市 春日井市 稲沢市

花壇用としてガーデニングブームを背景に生産が増え、全国有数の産出額を誇っています。一年を通じて、非常に多くの種類が出回ります。

## シクラメン(鉢物) 産出額 1 位



- ・産出額 8億円
- ・全国シェア 11.4%
- ・収穫面積 16ha
- ・主な生産地  
豊川市 田原市 安城市

シクラメンは冬の室内を華やかに飾る代表的な花です。日によく当て、傷んだ花は早めに摘み取るなど、こまめに手をかければ、桜の咲く頃まで花を楽しむことができます。

## 花の王国あいち

愛知県は、花き産出額において1962年以降60年連続で日本一を誇る「花の王国あいち」であり、2021年の花き産出額は542億円と、第2位の千葉県の2倍以上となっています。

順位	都道府県名	産出額	全国シェア
1	愛知県	542億円	16.4%
2	千葉県	187億円	5.7%
3	静岡県	168億円	5.1%
4	福岡県	165億円	5.0%
5	茨城県	159億円	4.8%



愛知県では、県民の皆さんに「花の王国あいち」を知っていただくため、シンボルマークを作成し、花きの生産・流通・小売等の関係団体と連携しながらPR活動を進めています。

花の王国あいちのWebページでは、あいちの花にまつわる小話や「あいち花マルシェ」などのイベント情報も掲載しています。ぜひチェックしてみてください。



↑ 2022年度に開催された花マルシェの様子



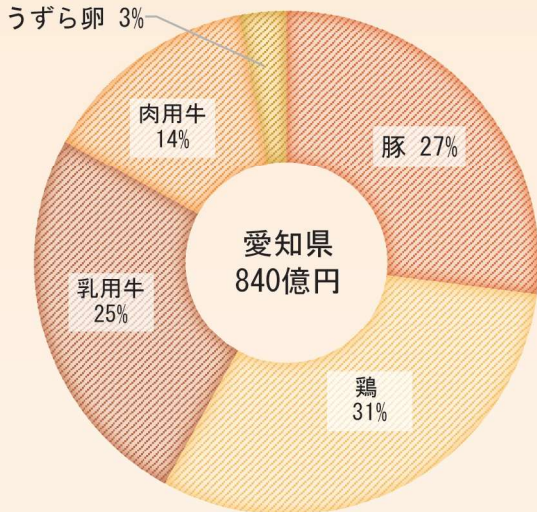
←Webページはこちら

産出額は「生産農業所得統計(2021年)」、作付面積・出荷量全国順位は「作物統計調査(2021年)」(農林水産省)などより。(ただし、主な生産地は「農業の動き(2022年)」より。)

# 8 畜産

愛知県の畜産は豚、鶏、乳用牛及び肉用牛の他、うずら卵や、ブランド地鶏である名古屋コーチンも特産品として盛んに生産されています。地域別には、知多及び東三河地域が主要な産地です。

## 畜産の品目別産出額構成比



## 畜産の品目別飼養頭羽数



### 豚

産出額 10位



- ・産出額 228億円
- ・全国シェア 3.5%
- ・飼養頭数 305,500頭
- ・主な生産地  
田原市 豊橋市 西尾市

愛知県では、おいしい豚肉を消費者へ提供できるよう、発育や肉質に優れる優秀な親豚を県で開発し、県内の生産者に供給しています。

この親豚からつくられた豚肉は『愛とん』と呼ばれ親しまれており、愛知県の品質の高い様々なブランド豚生産につながっています。

### 鶏

産出額 14位



- ・産出額 261億円  
(うち鶏卵 220億円 全国10位)
- ・全国シェア 2.8% (鶏卵4.0%)
- ・飼養羽数(採卵鶏) 7,642千羽
- ・主な生産地(鶏卵)  
常滑市 田原市 新城市

愛知の養鶏は、江戸時代末期に尾張藩士が始め、その後飛躍的に発展し、養鶏王国愛知と言われるようになりました。

都市近郊では、卵の直売を行う家族経営体が多く、プリンなど卵を使ったスイーツの加工・販売に取り組む養鶏農家もあります。

### 乳用牛

産出額 8位



- ・産出額 206億円  
(うち生乳 182億円 全国8位)
- ・全国シェア 2.2% (生乳 2.3%)
- ・飼養頭数 21,100頭
- ・主な生産地  
田原市 半田市 豊橋市

愛知県は酪農が盛んで、大規模農家が多いことが特徴です。

また、搾乳をする一方で、乳牛の雌牛に和牛を交配してハイブリッドを生産・肥育し、牛肉生産を行う、乳肉複合経営体も多くあります。

酪農が盛んな本県では、県内の学校給食で提供される牛乳は、全て愛知県産です。

## 肉用牛 産出額 18位



- ・産出額 116億円
- ・全国シェア 1.5%
- ・飼養頭数 42,400頭
- ・主な生産地  
田原市 豊橋市 半田市

愛知県は、和牛生産に力を入れており、県の和牛ブランド「みかわ牛」は、肉質四等級以上の厳選された和牛です。

また、酪農家が乳牛の雌牛に和牛を交配してハイブリッドを生産する「乳肉複合経営」が非常に多く、ハイブリッドだけの飼養頭数は、全国第3位となっています。

「知多牛」「あつみ牛」などハイブリッドの地域ブランドもあります。

## うずら卵 産出額 1位



- ・産出額 27億円
- ・全国シェア 62.8%
- ・飼養羽数 2,237千羽
- ・主な生産地  
豊橋市 阿久比町 半田市

うずらは、鎌倉時代には家きんとして飼育されており、大正時代以降本格的に改良され、実用的なニホンウズラが作出されました。

愛知県は、豊橋市、豊川市など東三河地域を中心として、全国の50%以上を飼育する日本一の生産地となっています。

うずら卵は、生卵のほか、約半分が水煮や燻製などに加工され、全国に出荷されています。

## 名古屋コーチン 産出額 1位



- ・産出額 13億円
- ・飼養羽数 278千羽
- ・主な生産地  
豊橋市 田原市 大府市

名古屋コーチンは明治時代半ば、元尾張藩士が、在来の地鶏と中国のバフコーチンを交配して作り出しました。昭和30年代に海外からブロイラーが輸入されるようになると、羽数が激減しましたが、消費者の高品質嗜好による需要が高まり、現在は多くの養鶏農家で飼育されています。

3月10日は「名古屋コーチンの日」として認定されており、様々なイベントが行われています。

## 養蜂 産出額 12位



- ・産出額 2億円
- ・全国シェア 3.9%
- ・飼育群数 5,087群
- ・主な生産地 県内全域

蜜蜂は、蜂蜜、ローヤルゼリー等の生産以外にも、果樹やいちご、メロン等の園芸作物の花粉交配を担うポリネーターとしても重要な役割を持っています。

県では、クログナモチ、アカシア、ミカンなどの蜜源植物が多く利用されています。

## 県畜産総合センター 種鶏場

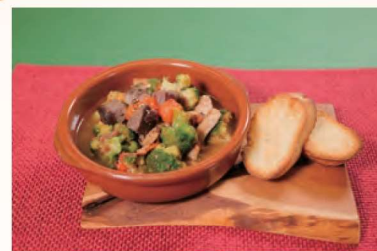


種鶏場は、名古屋コーチンの種鶏を供給する全国唯一の増殖機関です。

2023年度に、種鶏場は名古屋コーチン発祥の地と言われている小牧市に移転します。

今後は、市場ニーズに応えるため、新たな施設で名古屋コーチンを増産し、更なるブランド力の向上を目指します。

## 「愛知産ジビエ」 について



ジビエとは、狩猟によって捕獲された野生鳥獣の食肉を意味するフランス語です。

愛知県では、農作物被害を防ぐために捕獲した野生イノシシやシカを貴重な地域資源として捉え、県内で捕獲して食肉加工したものを「愛知産ジビエ」として利用推進しています。

産出額は「生産農業所得統計(2021年)」、飼養頭羽数は「畜産統計(2022年2月1日現在)」(農林水産省)などより。  
(ただし、主な生産地は「農業の動き(2022年)」などより。)

# 9 農業用水

愛知県では、木曾川・矢作川・豊川の豊かな水の恵みを利用して、古くから大規模な農業用水が開発されてきました。

また、戦後には、愛知用水・豊川用水などに代表される近代的な大規模用水が整備され、全国有数の農業県へと発展しました。

これら農業用水の恵みを良好な形で未来に引き継いでいくため、農業水利施設の更新整備や耐震対策等を計画的に進めています。



宮田用水の受益地



木津用水



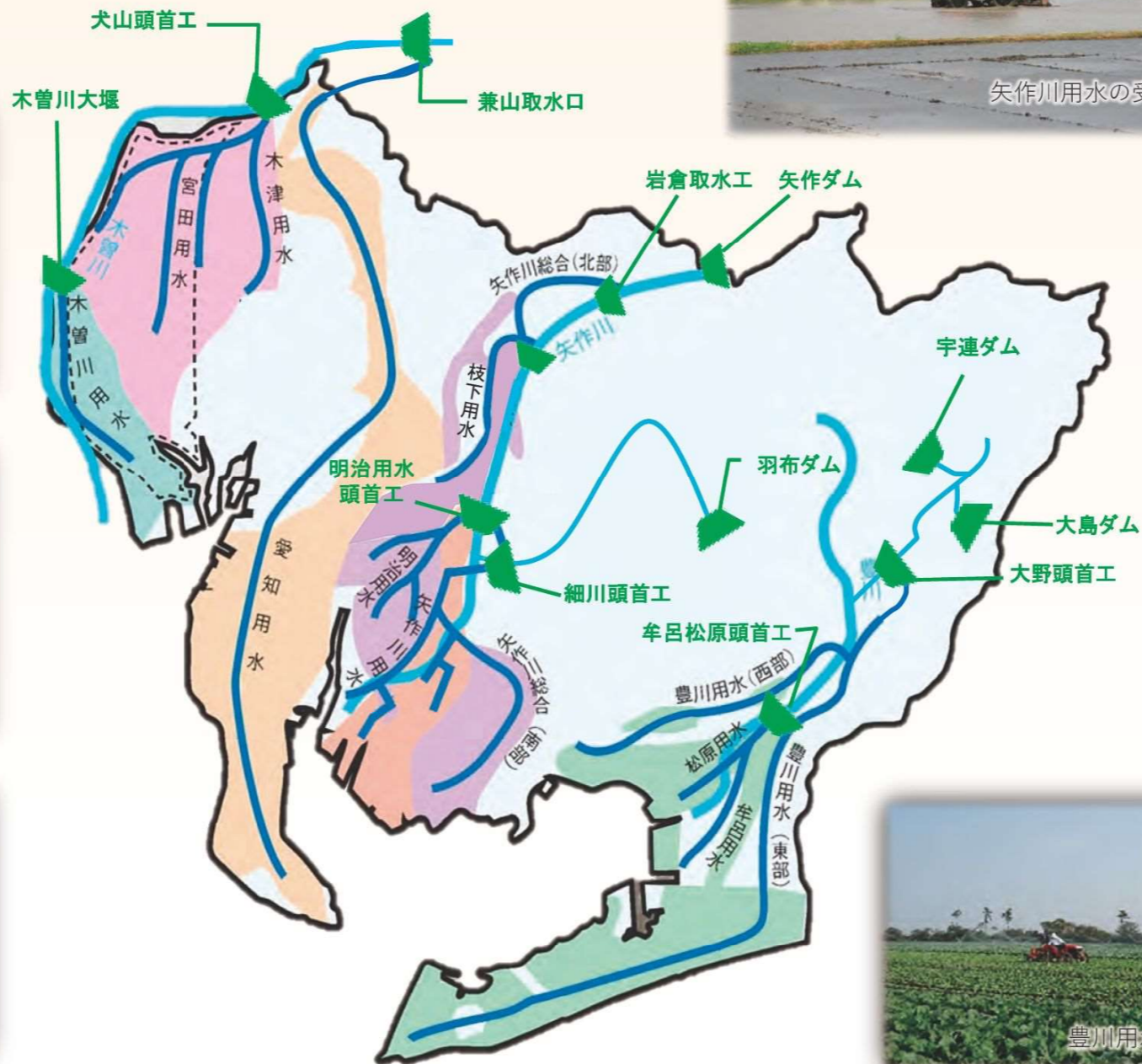
木曾川大堰



愛知用水幹線水路



愛知用水の受益地



## みどり 水土里豊かな愛知を守る「あいちの農業農村整備」



**農業生産基盤の整備**  
～生産性の高い農業基盤づくり～

ほ場整備による農地利用集積や生産基盤の整備を行うことで生産性の高い優良農地を確保し、良好な営農条件を創出します。

**農地等の保全と防災**  
～農地を守る・国土を守る～

自然災害による農地、農業用施設の被害を未然に防止することにより、農業生産の維持、農業経営の安定を図るとともに、国土の保全、地域住民のいのちや暮らしを守ります。

**農村の生活環境整備**  
～快適な生活環境づくり～

農業生産基盤と生活環境の整備を一体的・総合的に実施することで、農村地域の活性化を図るとともに、農業の持続的な発展の基盤を創出します。



矢作川用水の受益地



明治用水頭首工



羽布ダム



大島ダム



豊川用水の受益地



牟呂松原幹線水路

# 10 林業

愛知県の県土の4割を占める森林は、人工林の割合が高く、その多くは利用期を迎えていることから、充実した森林資源を生かす「循環型林業」を推進しています。

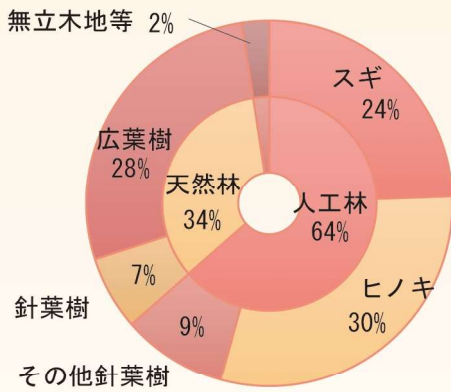
また、森林の持つ公益的機能を維持・増進するため、県独自の取組である「あいち森と緑づくり事業」などにより、間伐を始めとする森林整備を進めています。

## 森林資源

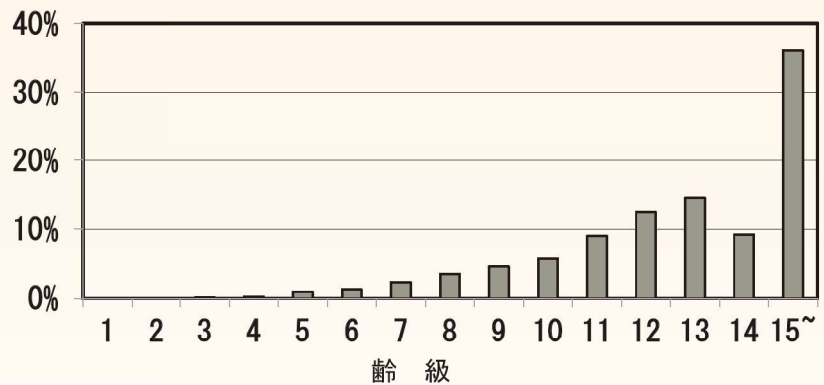
本県は217,744haの森林を有し、そのうち民有林が206,294haとなっています。地域森林計画対象森林の人工林率は64%と全国平均の45.6%を大きく上回っています。

樹種については、スギ24%、ヒノキ30%、広葉樹が28%となっています。また、スギ、ヒノキ人工林については、主伐の対象となる10齢級以上（46年生以上）が85.2%と大きな割合を占め、資源の成熟が進んでいます。

【林種別樹種別面積】



【愛知県の人工林資源の齢級構成（面積割合）】



## 林業産出額

2020年次の本県の林業産出額は28.7億円で前年の33.5億円から4.8億円の減少となりました。

木材生産は前年の25.7億円から19.1%減少し20.8億円となったほか、栽培きのこ類は7.4億円から4.1%増加し、7.7億円となっています。

順位	2020年次	(億円)
1位	長野県	(598)
2位	新潟県	(481)
3位	北海道	(388)
4位	宮崎県	(255)
5位	岩手県	(178)
34位	愛知県	(29)

出典：農林水産省統計部  
「林業算出額」

## 木材産業

本県は古くから東海地方の木材の集散地であったことや、大きな木材港があること、大消費地が控えていることなどから、木材の流通・加工の拠点となっており、特に木製品の出荷額は全国的に上位にあります。

2020年次の木材・木製品出荷額は、138,534百万円と、全国5位の位置にあり、全国シェアの5.1%を占めます。また、製材品出荷量は8万1千m<sup>3</sup>となっています。

【木材・木製品出荷額】

順位	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
1位	茨城県	静岡県	静岡県	茨城県	静岡県	静岡県
2位	静岡県	北海道	北海道	北海道	北海道	茨城県
3位	北海道	茨城県	茨城県	静岡県	茨城県	北海道
4位	広島県	愛知県	愛知県	愛知県	広島県	広島県
5位	愛知県	広島県	広島県	広島県	愛知県	愛知県

出典：経済産業省 工業統計調査（産業編）  
2015年次及び2020年次は経済センサス活動調査（産業編）



## 県産木材の利用促進

木材の利用は、林業・木材産業の自立的な発展による地域経済の活性化に資するだけでなく、SDGsの達成やカーボンニュートラルの実現に貢献します。さらに、木材は断熱性、調湿性、いやしの効果など、人に優しい特性を持っていることから、近年注目されています。

県では、「愛知県木材利用促進条例」を施行し、公共建築物だけでなく、民間の建築物も含めて、木材利用を促進していくこととしています。

### 2021年度木の香る都市づくり事業により支援した施設



ささしま高架下オフィス（名古屋市）



名古屋ビルディング桜館（名古屋市）

### 愛知県木材利用促進条例とは

2022年4月1日施行の条例で、木材の利用の促進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、県内の林業及び木材産業の自立的な発展、森林の有する多面的機能の持続的な発揮並びに循環型社会の形成に資するとともに、快適で豊かな県民生活の実現に寄与することを目的としています。

木材、中でも県産木材の利用を最優先すること、森林資源の循環的利用等を基本理念としています。行政や林業・木材産業事業者だけでなく、建築関係を含む広く事業者、ひいては県民も木材利用の意義を理解し、積極的に利用することとしています。

#### 【木材の利用の促進に関する施策】

- |                       |                          |
|-----------------------|--------------------------|
| ① 県産木材の安定供給の促進        | ⑤ 木材の有効利用の促進             |
| ② 木材の加工及び流通の体制の整備     | ⑥ 県産木材の品質及び性能の明確化のための支援等 |
| ③ 建築物等における木材の利用の促進    | ⑦ 県産木材の販路の拡大             |
| ④ 県の建築物等における県産木材の率先利用 | ⑧ 人材の確保及び育成 など           |

## 循環型林業について

本県の充実したスギ・ヒノキ林の資源量は約3,700万㎡と豊富です。

名古屋市を中心とした大消費地と三河地方を中心とした森林資源の生産地を共に抱える本県の特性を生かし、森林資源を持続的に活用していく「伐る・使う→植える→育てる」循環型林業の推進に取り組んでいます。

循環型林業は、SDGsの目標達成やカーボンニュートラルの実現に貢献するとともに、森林整備を促進し、雨水の貯留や洪水を緩和する水源涵養機能、土砂の崩壊を防ぐ山地災害防止機能、地球環境保全機能といった森林の持つ公益的機能を維持・増進します。

### 循環型林業のイメージ

